



RI 第 2 6 1 0 地区

東となみロータリークラブ会報

2014-2015 年度 No.16

事務局 〒939-1635 富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F

ふくみつ光房内 TEL 0763-53-1333 F A X 0763-53-1334,

inashorc@athena.ocn.ne.jp

2014-2015 年度 会長 坂井彦就、幹事 岩崎 修

2014-2015 年度 RI テーマ

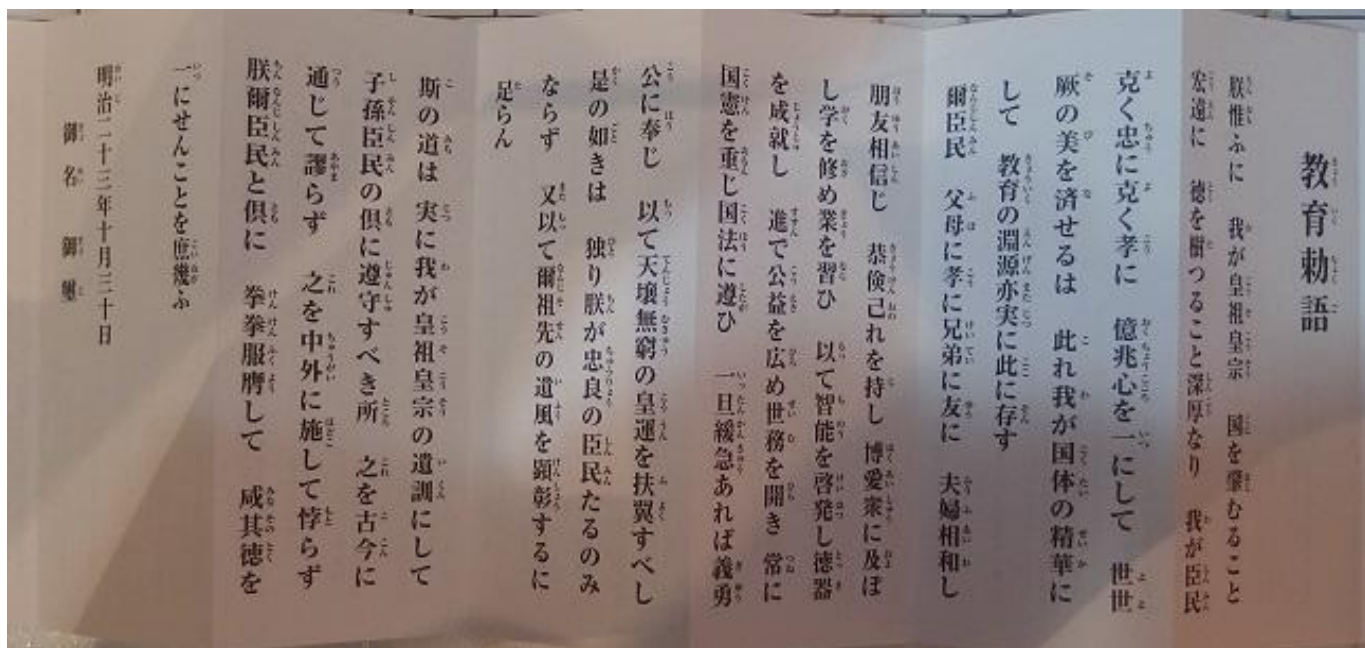


Light Up Rotary

「ロータリーに輝きを」

(ゲイリー C.K. ホアン 会長)

例会記録



ゲスト卓話：長田正勝氏資料より「教育勅語」

第 1 7 4 2 回例会

平成 26 年 10 月 15 日(水) PM0:30 よいとこ井波

1. 点 鐘 坂井彦就会長
2. ソング：四つのテスト
3. ゲスト：長田正勝さん(長田神具店店主)



4. 会長の時間：長田さんようこそお越しいただきました。

歓迎申し上げます。後程、卓話よろしく申し上げます。
私は何度かお会いしていますが、正式には先日お伺して話をさせていただきました。長田さんは以前からラジオに出演され話をされるのは大の得意だと思っています。また、神に仕える仕事をされていますので身の引き締まる思いです。どうかゆっくりしてってください。本日、富山国際会議場において約 1000 名の方が集まり、北陸ディストネーションキャンペーンの関連事業として全国宣伝販売促進会議があります。私は富山県の観光について発表することになっています。今、気運も盛り上がり、昨日もリハーサルに行ってきました。今日の会議はもう始まっていますが、メインの会議は 14:00 から 15:45 まで行われ、そのあと ANA ホテルに移動して北陸三県の食べ物や催物について発表等がありますが、私の担当するブースは、「とやまのおいしい朝ごはん」ということで季節に合った秋の一品を持ち寄って、皆さんに召し上がってもらおうことになっています。会場は、800 人以上でごった返すと思いますが、頑張って富山県の PR していきたいと思っています。それから、大変有難いことに高岡西 RC から 12 月 10 日（水）の昼に卓話してほしいと正式に文書依頼が昨日ありました。当クラブの例会日ですが休まさせていただきます。後程、幹事報告の中で報告があると思いますが、新入会員候補として齊藤美華子さんの入会につきまして理事会で承認を得ましたので皆さんよろしく申し上げます。

5. 臨時理事会・幹事報告：①臨時理事会にて、正会員推薦が出され、承認されました。一週間以内に異議申し立てがなければ、入会が承認されます。候補者：齊藤美華子さん・料亭旅館「松風樓」女将で、紹介者は斎藤彰会員と長谷川吉美会員です。南砺 RC には、了解済みです。②『ハイライトよねやま』及び 2610 地区「学友会だより」各テーブルに配布。③例会の変更については、事務局に確認の事。
6. 出席報告(齋藤委員長)：会員数 18 名本日 12 名出席・メイク 1 名、72.22%
7. 委員会報告：①社会奉仕委員会(中島委員長)：前回の C.A.でのご意見を集約いたしました。現状分析では、少子化・高齢者・障害者に対する支援について考えて

いこう、現在の事業については、概ね今まで通りでいいが、会員が増えたら、新しい事もという意見があり、また、将来については、地域をとりこむ参加型を、小さいクラブなりに活動をという意見があったので、これをまとめて地区に提出します。②職業奉仕委員会(三角委員長)：次回例会は、お昼、三楽園が会場です。表彰や卓話などを予定しています。③「いい歯の日キャンペーン」(山本会員)：会場がアミューですが、申し込みが遅れたために、ドコモショップ向いの憩いのスペースが中心となり、会場全体でアンケートなどを行っていきたいと思います。本日、見本のアンケート用紙を準備しましたのでご覧下さい。④ゴルフ同好会(岩崎幹事)：10 月 31 日(金)に 1 組だけでも回りたいと思います。11 月 13 日(木)にも予定したいのですが、この時は、会員だけでなく、会員候補者など有志を誘って下さい。

8. ニコニコBOX(SAA：本日 6 名)

坂井会長：長田様ようこそ、お越しいただきました。

本日の卓話、楽しみにしております。

岩崎幹事：長田さん、ようこそ。台風 19 号大したことなく良かったです。早退します。

三角会員：長田正勝様、本日はようこそおいで下さいました。卓話宜しく申し上げます。一緒に活動できる日を楽しみにしています。

河合会員：長田さん、ようこそ！いつも Facebook でお世話になっています。メンバーとしてともに顔合わせをお願いしたいですね。

中島会員：長田正勝さんようこそ。ご入会をお待ちしています。

山本武夫会員：長田正勝様、ようこそいらっしゃいました。これからお付き合いを宜しくお願いします。11 月 8 日いい歯の日キャンペーン、アミューの会場、少し狭い所ですが、よろしくお願いします。

ゲスト卓話「職業について」

長田正勝さん(長田神具店店主)



三角会員(紹介者)： 今月は、職業奉仕月間であります。今日、卓話の当番となっていました、下手な話をするよりも長田さんに是非来ていただきたいとお願いし、本日来ていただきました。皆さんご存知の砺波市五郎丸で神具の製造販売をしておられます長田正勝さんです。そのほかにも数多くの活動をされておられます。これから長田さんの職業を通じての卓話をお願いしたいと思います。長田さんよろしくお願いします。



長田正勝氏： 正確には名前を「おさだ」と申します。若輩者ですが暫くお話をさせていただきます。御縁ですでお話の機会にお手元の「教育勅語」のしおりを配らせていただきました。深く考えていただくことはございませんので、一度見返していただければと思います。明治神宮さんで配られているもので、非常に分かりやすく解説されています。三角さんから職業奉仕の話をしてくれと言われ、うちの仕事の話をしようかと思いましたが、実は神棚という仕事は基本が井波彫刻と歴史が被っています。京都から宮大工が来られ、その流れの中で井波の神棚が産業として発展する基礎がつくられました。先日、大阪で講演をする機会があり労働に関するお話をしてまいりました。その内容をダイ

ジェスト版でお話します。

まず「働かせていただく」と「働く」とでは意味合いが、最近の若い方の労働に関して若い人の働くという意識が変わってきていると思います。昔は、働かせていただくということで働くことへの感謝というものがありました。本日15日は、伊勢神宮におかれては神嘗祭です。この神嘗祭と新嘗祭は何れも農業に感謝するものです。神社に勤めることを奉職といい、働くことを奉仕と言います。本来は皆さんのために働くであり、「神様」と「働く」は密接な関係があります。このあと行われます新嘗祭は農業で非常に重視されます。伊勢の住民は、本日の神嘗祭が終わって初めて新米をいただくという決まりがありました。ニニギノミコトが地上に降りられて国を治めるように命ぜられた時に、「吾が高天原にきしめす斎庭の稲を以て、亦吾が児に御せまつるべし。」地上に稲を植えて栄えるようにという命令を守られたという歴史があり、神様への感謝という心と、その上にある自然界への感謝が非常に大切であると教えられています。

昨今、安倍内閣におきまして移民を受け入れるという政策があります。多文化共生政策というものが進められるということを聞いています。賛成、反対は皆さんのお考えですが、その中で少し考えていただきたい。日本の中でどのような社会をもってコミュニティが形成されたか思い出していただきたい。教育勅語の中にも書いてありますが、「斯の道は 実に我が皇祖皇宗の遺訓にして 子孫臣民の俱に遵守すべき所……」。皆さんの RC と相通じるものだと思います。日本の中で天皇陛下と言うことに少しふれてみたいと思います。「民のかまど」という話をしたいと思ってまいりました。仁徳天皇が天皇の時代に町をご覧になり、「民の竈から煙が発ちあがらぬは、のが無いのではないか。都がこうだから地方はなおひどいであろう。」と仰せられその後、向う三年税を免ずる。となされた。その間天皇は、衣が破れようが、垣根が壊れようが、茅葺屋根の茅が壊れようが我慢して税の免除をされて皆が楽になるよう望まれました。そして3年たって少しずつ竈から煙が見えるようになった頃に、皇后さまに申された。「朕はすでに富んだ」よく聞け、政は民のもとにしなければならぬ。民が富んでいくのだから。民が富んだことになると言われた。天皇と私どもの関係は大層なものではございま

せん。天皇陛下は私どものことを、一番大切なものは国民である。

これを会社に例えれば、トップの人間だけが富めばいいということではなく、下から現場の人間が恵まれていくということが会社の利益になるという基本的な考えを如実に表していることではないかということでご紹介させていただきました。最近逆のブラック企業が問題になっています。利潤を求めることは大切ではありますが、なんとなく欧米の様式を取り入れ過ぎたため、人と人の関係、皆が協力して発展していこうという関係が、今の日本の中で少し薄れてきているように思います。奉仕と言う言葉をもう一度求めていくべきであると思っています。これはあくまでも日本型社会の回帰というようにも捉えています。戦後の地域社会ということにも絡んできます。戦前の日本社会は工業社会ではありますが、基本となるもの、中心となるものは農業でした。何をするにしても農業コミュニティ、地域の共同体これが中心になるものかと思います。地縁に属する農業コミュニティが基本であったと思います。これが戦後、工業化、社会化によって企業コミュニティに変化しました。その会社で判断していく、これが基本的な変化の一つであると思います。そのことにより社会への貢献の仕方も変わってきます。皆さんがやっておられる奉仕活動。これを自分の為にするのか、人のためにするのか、人からどのようにみられているのかという思いですのか、いや私はこうしてあげたいと思っていますのか。この辺が企業の顔と言われる部分でなかろうかと思います。マスコミなどを通じてブラック企業というものが表面化してくる。

若い人は、働くところが無いという、どれだけ募集しても来ない。働くところがないわけではなくて、自分たちが選んでしまって好きな職種がないので、働く場所がないという。好きな仕事をしたい、楽しみたいという基本があり、どんな募集しても来ない。（「すき家」のアルバイトの事例紹介がある）働くことはどのようにみられているのか、自分の為にとということだけでいくと今の現象となります。急に変えるのは難しいと思います。

（「神具店」の話がある）

外国から入って来る労働者の話し、ほぼ決定であります。南砺市内においても外国人労働者が多くなってきています。入って来る方はどんな方か、地域の中で、職場の中で

うまくやって行く方向性を考え、ダメな時はダメにしなければならない。今後課せられている話であると思っています。イメージとして、昔は集団就職や出稼ぎで各地から来ていました。それが外国人に広がっただけではないかという方もいらっしゃるが、言葉が通じなくて、文化も違う。余程の忍耐力が必要かと思います。そのような人たちが沢山入ってくるときに、私たちが同じようなゴールを目指すことは今まで以上に、若い人たちが来てくれない以上に難しいものを抱えています。

お配りした「教育勅語」にもいろいろと書いてありますので、出来れば一読いただければ、振り返っていただければありがたいです。

